

新人教育プログラム

2013.7.6

# リスクマネジメント (安全管理と感染予防含む)

竹重病院 森本正道

# リスクとは

## 一般的なリスクの定義

「損失」「損失の可能性」「不確実性」

「意図しないこと、予測しなかったこと、不本意なこと」

(→まさか！、しまった！、そんな！などの感嘆詞で示される)

## 医療の現場で重要なリスクの定義

「予想された結果と現実の結果との相違の可能性」

# リスクマネジメントにある「リスク」とは

## 予想された結果と現実の結果の相違

|               |               |
|---------------|---------------|
| 治ると思った        | → 治らなかった      |
| 退院できると思った     | → 退院できなかった    |
| ベッドに寝ていると思った  | → ベッドから転落していた |
| 薬を飲んでいると思っていた | → 飲んでいなかった    |

## リスクマネジメント

「予想された結果と現実の結果との相違が起こらないようにしていくこと」

# リスクマネジメントの一般的な定義

リスクマネジメントは、マネジメント一般の領域にある専門分野のひとつであり、組織がその使命や理念を達成するために、その資産や活動に及ぼすリスクの影響から組織の資産を最も費用効率よく守るための、一連のプロセスである。

# リスクマネジメントの定義の要点

1. マネジメントの専門分野である
2. 組織の使命や理念の達成に貢献するものである。
3. リスクの影響から組織を守るものである。
4. 費用効率を良く守るものである。
5. 一連のプロセスである。

組織を損失から守るという視点から組織経営のあり方に焦点をあてた取り組みである。

医療現場では、  
医療の質を高める取り組みである。

# リスクマネジメントのプロセス

- ①リスクの把握(Identification)
- ②リスクの評価・分析(Evaluation/Analysis)
- ③対応方法(Treatment)
- ④実行結果の再評価(Re-evaluation)

# リスクの把握

- 報告書
- チェックリスト
- リスクマネージャーの巡回
- 投書箱
- 患者満足度調査
- 患者との会話
- その他

# 対応方法

- リスクコントロール(事前の対応策)  
事故防止、紛争・訴訟の拡大防止
- リスクファイナンス(事後の対応策)  
紛争・訴訟に関連する保険・財務の手当て

一般の産業界では、リスクファイナンスが中心であった。（“いざという時のために資金を蓄えておく”、“とりあえず保険をかけておく”）

医療界では、リスクコントロールはもちろん、厳しい経済環境を背景にますます高度なリスクファイナンスが必要となっている。



# アメリカでのリスクマネジメント

- アメリカでは1970年代から、リスクマネジメントの概念が浸透してきた。
- 患者の権利が主張されるようになり、医療訴訟が増え、医療側が敗訴するケースが増え、賠償金の高騰が続く。（“医療訴訟危機”と呼ばれた時代）
- 賠償責任保険会社からの賠償額請求が増え、保険料を上げることでしのいだが、追いつかなくなり、保険の販売を中止する会社が相次ぐ。
- 互助会のような自家保険制度を作って医療機関どうしで協力し合って財源の確保、維持・管理を行なうようになる。
- 貴重な資産を以下に守るかということから、紛争や訴訟を起こさないことや拡大の防止、事故を起こさないこと（予防）という視点で、クローズアップされ、医療界に浸透して行った。

リスクファイナンスから、リスクコントロールへ

# 医療の質の確保

1988年、JCAHO(Joint commissoin on Accreditation of Healthcare Organizations)がリスクマネジメントの取り組みを評価項目に加えたことで医療界に浸透する決定的なきっかけとなった。

医療の質の確保に貢献する取り組みとして広く認知されるようになった。

# 「医療におけるリスクマネジメント」の 整理のポイント

- ① 前提は医療の質の確保
- ② 目的は組織を損失から守ること



両手のひらをよくこする



手の甲をよくこする



指先、爪の内側を十分に



指の間を十分に洗う



親指と手のひらをねじり洗いする



手首も忘れずに洗う

## 手洗いの正しい方法

手背

手掌

- 普通に注意を要する部位
- 比較的注意を要する部位
- 最も注意を要する部位

